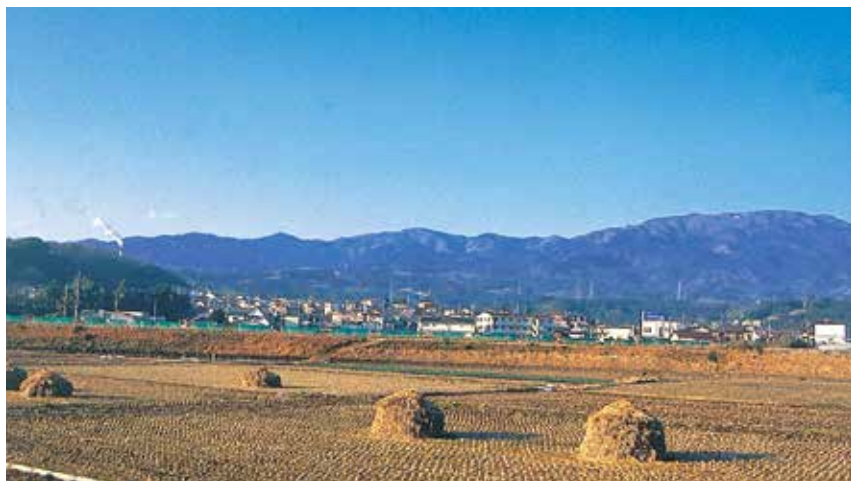


山地の自然観察

箱根外輪山を望む



山地

小田原には明星ヶ岳・塔の峰・白銀山や星山など、800mから1,000mに近い山々があります。そのほとんどはスギやヒノキの人工林ですが、所々で山地ならではの自然が観察できます。



山地の自然観察マップ

宮城野林道沿いの(旧)塔の峰青少年の家から明星ヶ岳の登山口に至る道の周辺は、小田原の山地の自然を観察するには大変良い所です。足をのびし、明星ヶ岳に行ってくるのもよいでしょう。



行き方 箱根登山線 塔の沢駅下車

帰り方 〃 箱根湯本駅乗車

注 意・塔の峰までは、急な上りなので、**すべらないくつ**が必要です。

・山道なので一人では行かないようにしましょう。

山地の植物



山地は杉やヒノキの植林地や落葉樹の林、そして草原と環境条件が異なるところに適する植物の生育を見ることができ、種類も豊かです。

カントウミヤマカタバミ（4月）

林の中のやや暗い静けさの中に、ひっそりと白い花を咲かせます。



ヒトリシズカ（4月）

シズカは静御前の意味、花穂が一本のものをヒトリシズカ、二本のものをフタリシズカといいます。フタリシズカは二本とは限らず4本、5本とたくさんつけることもあります。



フタリシズカ（6月）



ヤマルリソウ

（4月）

沢ぞいのやや湿ったところに好んで生え、るり色の花をたくさん付けます。ワスレナグサと同じ科です。



エイザンスミレ（４月）

スミレの仲間

スミレの名の由来は、大工さんが材木に線を引くのに使っていた墨^{すみ}入れに花の形が似ているからです。小田原付近には８種類ほどが確認されています。



ナガバノスミレサイシン（４月）



ニオイタチツボスミレ（４月）



タチツボスミレ（４月）



アカネスミレ（４月）



エビネ（5月）

杉林の中によく見られ、地下茎がエビの尾のように曲がっているのに見立てて名づけられました。花の色、形に変異があり、掘り採られてしだいに数が減っている植物です。



ミミガタテンナンショウ（4月）

落葉樹の林の中にすくくと立つように生え、花の包のつつぐちが耳たぶのように広がっています。



ナベワリ（4月）

林内でまれに見られます。毒をもった植物です。



ウラシマソウ（5月）

花の包から出ている糸を「浦島太郎」のつり糸と見ためました。



カヤラン(5月)

モミの木に着生しています。ややまれなランの仲間で、形がカヤの木の葉に似ているのでこの名があります。



サイハイラン(5月)

花の様子から、ぶしやうむかししき武将が指揮をとるときに使った采配さいはいに似ているので、この名がつけられました。



アカショウマ(5月)

明るい林や草原に生育し、地下茎を調べると赤色をしています。近い種類に、箱根に多いフジアカショウマがあります。



ホオノキ(5月)

とても大きな花を咲かせ、香りが高く、風に乗ってくる香りから、花の時期を知ることができます。



フジ(5月)

他の木にからみついて高く登ります。右巻きがノダフジ、左巻きがヤマフジです。



シモツケ(6月)

林のへりや草原など日あたりのよいところに生育し、うす桃色の小さな花がたくさん集まって咲きます。シモツケの名は下野^{しもつけ}の国(現在の栃木県)で見つけられたからです。



ウワミズザクラ

(5月)

桜の花とはまるで似ていないふさ状の白い花が咲きますが、一つの花のつくりは桜とまったく同じです。



ハナイカダ

(5月)

葉の上の真ん中に小さい花をつける様子から、葉をいかだにたとえて名付けられました。

雌雄異株です。



アリドオシ(6月)

蟻でも刺し通してしまいそうなトゲがあることからこの名があり、千両万両ありどおしと、縁起良い植物として庭に植えます。



ネジバナ(7月)

芝生しばふの中によく見かけます。花がらせん状にねじれているので、この名があり、モジズリともいいます。



ウツギ(6月)

童謡どうようの『夏は来ぬ』の中の[うの花のおうかきね]は、この花のことです。



マルバウツギ(4月)

ウツギより少し早く咲きます。



ホタルブクロ

(6月)

この花の中にホタルを入れて遊んだことに由来します。

よく観察するとヤマホタルブクロも見つかります。



ネムノキ (7月)

夜になると葉をとじてしまうので、この名があります。これを睡眠運動すいみんうんどうといいます。



ヤマボウシ (6月)

4枚の白い花びらのように見えるのは、総包そうほうと呼ばれるものです。中心の玉のような所が花の集まりです。



シシウド (8月)

背丈は2 mにもなります。イノシシが食べるようなウドという意味の名です。



ヤマアジサイ (6月)

山あいの沢にそって多く見ることができます。サワアジサイともいいます。



ヤマユリ(7月)
神奈川県の花
です。

花の季節には
香りが強く、白
く大きな花は遠
くからよく目立
ちます。



コガンピ(8月)
草原に見られ、ややまれな植
物です。



オカトラノオ(7月)
梅雨明けごろから咲き始める
夏の花です。



ウツボグサ(7月)
花の穂のよう
すが弓矢を入れる
鞆うつぼに似ている
のでこの名があ
ります。
夏になると花
穂すいは枯れるので
夏枯草かこそうともいい
ます。



タマアジサイ

(8月)

つぼみが玉の形をしているのでこの名があります。

沢ぞい^{しめ}の湿り気が多い所に生育しています。



セキヤノアキチョウジ (9月)

木かげで育ち、細長い青い花を、リズムカルに咲かせます。



ツリフネソウ (9月)

花は帆^はかけ船をつり下げたようです。種子はホウセンカと同



じように、自力で飛び散ります。

キバナアキギリ

(10月)

秋に桐^{きり}の花に似た黄色い花を咲かせます。

花壇^{かたん}に植えるサルビアも、同じ科の植物です。



ギンリョウソウ（8月）

くさった植物に寄生し、やや暗い木かげで見られます。



ツリバナ（9月）

枝から垂れ下がった花や実をつけるのでこの名があります。



ホトトギス（10月）

花びらの斑点の様子はんてんが、ホトトギスの羽毛うもによく似ているので名付けられました。



ミズヒキ（9月）

花穂かすいを紅白の水引きにたとえて名づけられました。山ぎわに見られます。



ヤマトリカブト

(10月)

花の形が昔の
人がかぶった冠^{かんむり}
に似ているので
この名があります。
根には毒の
成分を含んでいます。



リュウノウギク (10月)

野菊の代表的な植物で、葉の
香りは強いものがあります。



マルバフジバカマ (9月)

帰化植物で、箱根外輪山より
ますます分布域^{ぶんぷいき}が広がっています。



フユイチゴ

(12月)

冬に実を結ぶ
いちごで、木も
れ陽^ひのさす林の
中に多く、食べ
ることができます。



オオバノハチ ジョウシダ

(7月)

暖帯性のシダ植物で、水辺に好んで生え、1 m以上にもなります。

ワラビと同じ科です。



クジャクシダ (6月)

クジャクが羽を広げたようにとても美しいシダ植物です。



ノキシノブ (4月)

岩や木に着いて生育します。
湿度の高いところを好み、乾燥^{かんそう}にも強いです。



ウラジロ (9月)

葉の裏が白く正月かざりに使われます。暖帯性のシダ植物で、箱根外輪山にそって点々と分布します。

山地の虫



アサギマダラ

気流に乗って緩やかに飛びま
す。記録では、1,000 km 飛んだ
とか？



テングチョウ

てんぐの鼻のように頭部の先
がとがっています。



マユタテアカネ

顔にマユのような
模様があります。



ミヤマアカネ

はねにある褐色の
模様が特徴です。



キンモンガ

チョウのようにき
れいなガもいます。

アキアカネ
はナツアカネ
よりも先に羽
化し暑さをし
のぐために山
にのぼります。

秋になると、

平地へおりてきて、水田やプールに卵を産みます。

ナツアカネは、山には行かないので夏によく低地で見かけます。



アキアカネ



ナツアカネ

山地の鳥

山地には自然林と人工林（植林地）がありますが、それらの場所ではそれぞれの環境にあった野鳥を観察することができます。自然林ではアオジやキビタキの声が聞かれたり、植林地ではクロツグミ、アカハラ、カケス、ハシブトガラスなどが見られます。



キビタキ <夏鳥>

頭から背中・尾は黒く、目の上と喉や腹は鮮やかな黄色。林の中を飛んでいる小さなハエやアブなどを捕まえて食べます。



アオジ <留鳥>

頭は濃い緑色で、目先と嘴の周りが黒いです。

冬には平地の草むらや草原で見られ、チッとひと声、強く鳴きます。



カケス <留鳥>

背中と腹は薄紫色で頭はゴマ塩頭。翼にはコバルトブルーの美しい羽根があります。ジャージャーと大きくて濁った声で鳴きます。他の鳥の鳴きまねもします。

小田原の生き物 (虫や鳥等以外の生き物)



サル



タヌキ



ドブネズミの子



モグラ



コウモリ



アオダイショウ



ヤマカガシ



アマガエル



ヒキガエル



トウキョウダルマガエル



カジカガエル



トビズムカデ



コウガイビル



ヤスデ



キセルガイ



ヤモリ



トカゲ



カナヘビ



ミスジマイマイ



ヒダリマキマイマイ(大)と
コハクオナジマイマイ(小)

オナジマイマイ▶

小田原の自然観察ノート No.2

自分で書き入れて資料にしてください

[illegible]